

第 23 回北上市史編さん委員会（要旨）

1 日 時 令和 8 年 2 月 5 日（木）午後 1 時 30 分～ 3 時 10 分

2 場 所 市役所本庁舎庁議室

3 出席者

市史編さん委員 9 人

事務局 5 人

4 内 容

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

事前に配付している資料について本日は確認をしていただき、刊行完了まであとわずかですが、皆様の協力により進めてまいりたい。

(3) 報告

1) 各部会の進捗状況について

○ 6 部班会の状況について、担当者から説明をした。

2) 付帯事業について

○ 今年度 2 回実施した北上市民大学について報告した。

○ 岩手民俗の会が主催したフォーラム「北上の民俗を考える」について報告した。

3) 「通史編 1 先史・古代・中世」について

○ 資料編の資料番号に付する記号の変更

○ 表紙カバー及び帯のデザイン

○ 通史編本紙の紙の種類 以上 3 点について報告した。

（委員からの質問等）

・ 帯のキャッチコピーは前に提示したことはあるのか。

⇒ 前回デザイン案を提示した際には「遙かなる北上の源流へ。」というコピーがついていたが、担当部会の 3 部班会長に確認した時に、「源流」は北上川を連想してしまうが、北上市の位置は元ではないから違和感があると指摘されたため「淵源」に変更した。

・ カバー帯にある「本書の構成」はここ以外に載っていないのか。帯が外れると内容が一目でわかるものがなくなるのではないか。

⇒ 目次以外での記載はない。カバー折返し部分に入れるなど方法を検討する。

・ サンプル紙にある西光寺の毘沙門天の写真はこのままか。

⇒ 公表されているものはこれしかないので、この写真が掲載される。

(4) 協議

1) 「通史編 3 近現代」の原稿案について

<近代>

ア 小見出しを配置するペースが人によってバラバラだが適切かどうかご意見をいただきたい。

〔事務局案〕

執筆者の判断に任せたいが、全体としての調整は必要と考える。

(結論) 執筆者の意向を尊重するが、小見出しの数を少しまとめた方が読みやすさにつながるので工夫が必要である。

(委員からの意見)

- ・ 執筆者の意図もあるし、読み手は小見出しがある方が読みやすいと思う。
- ・ 前後のつながりがうまくいけばよいが、小見出しに気を取られる感じがした。
- ・ 間隔が短いと年表を見ているように感じてしまう。

イ 記述の根拠となる資料は「項」の最後にまとめて出典注として示す予定だが問題ないか。また、近代と現代で扱いをそろえる必要があるか。

〔事務局案〕

北上の近代史をまとめた本が今までなかったことから、その根拠となる資料を見てほしい。また、新聞や雑誌などを根拠にしていることが多いため、他巻と異なる扱いになっても問題はない。

(結論) 執筆者の意向を尊重し、出典注を入れることでよい。

原典にたどりつけるような掲載の仕方を工夫する。

(委員からの意見)

- ・ 資料編ではないので、通史編は流れが大事だと思う。出典等を入れてあまり刻むと流れが止まってしまう感じがする。
- ・ 「項」の後ろでよい。原典にたどりつくには出典名がないとできない。執筆者の意向であるならよい。
- ・ 特にも市内にある原典を載せるなら、所蔵先を入れた方が親切である。

(その他の意見)

・ 近代の交通整備について、平和街道ができる前の仙人峠の開拓や道路交通網の整備についての記載を少し加えていただきたい。(他にも口内街道、岩谷堂街道、土沢街道、また奥州街道の切り替えなどもある。)

・ 『和賀新聞』など、資料の引用文を旧字体のまま掲載しているが、原文のままではなく、口語体にして分かりやすくしてほしい。

⇒ 旧漢字は新漢字にするほか、ルビを振るなどして読みやすいように対応していく予定である。

- ・明治天皇が来県したことが北上にどういう意味や影響があったのか。

※補足事項 平和記念展示館について

近代のみで扱うよりも、近現代を通じて平和記念展示館そのものの活動を扱った方がよいとのことから、コラムとして扱う。内容は、①軍事郵便制度②施設の成り立ち③コレクションの意義④全体の評価といった構成で考えており、現在コラムの執筆者を調整している。

<現代>

ア ページが超過（37 ページ程度）しているが不要な部分はないか。

[事務局案]

全体の読み合わせをしていないので分量が超過しているが、内容を精査して重複部分を削るなどしたい。

(結論) 部班会で読み合わせをして重複部分の調整をすること。(夏油の観光開発や高校、展勝地など)

(委員からの意見)

- ・年代ごとの記載のため重複が多すぎる。部会等で確認すること。
 - ・用語の索引は作る予定はあるのか。
- ⇒ 通史編3冊を刊行した後の令和9年度に索引集を作る予定であるが、通史編刊行直後には索引はない。
- ・市民向けの読みやすい市史にするための検討が必要である。
 - ・通しでの読み合わせを部会等で行い、執筆者の意見も確認しながら分量のバランス調整をしてほしい。

イ 内容の誤り、重複、分かりにくい表現などはないか。

[事務局案]

時代で分けられる内容であれば、それぞれの時代で掲載する。

また、資料編で掲載不可とされたものは、通史編でも掲載しない。

(結論) 時代による重複を読み合わせ等により調整すること。

資料編で掲載不可と決定した部分については通史編にも掲載はしない。

(委員からの意見)

- ・資料編で掲載不可としたところは本編でも掲載はしない。
- ・章ごとに年代で区切っているが、平成や令和まで記載されているところもある。取りこぼしがあっては困るので、重複の調整も含めて柔軟に対応していただきたい。(どこに中心を置くのかを考えて調整すること。)

- ・ 2章で歴代市長の功績が載っているが、平成以降の3章からは市長の功績は載っていない。バランスが悪いので掲載の仕方を工夫すること。
- ・ 展勝地の分量が多い。重要な部分なので必要ではあるが、全体から見た適切な分量を検討してほしい。

ウ 構成が揃っていないが、原稿のまま進めてよいか。

(章・節・項・小見出し以外の分類をしている、小見出しがないなど)

[事務局案]

大きな「項」には小見出しを入れる。「項」の次は小見出しとし、階層が多い場合は小見出しの中で分類する。

(結論) 事務局案のとおりでよい。

(委員からの意見)

- ・ 小見出しの入れ方は統一した方がよい。編集方針の骨格を成す部分なので変えないほうが良い。

<近現代共通事項>

ア 現代班長より、全体を統括する説明が入った方がよいとの意見があったが必要か。

[事務局案]

近代、現代を合わせると70ページ程度超過しているので、これ以上原稿をふやすことは難しい。また、通史編1でもそのような説明はないので同様の取り扱いとしたい。

(結論) 執筆者と相談して想定している内容を確認すること。

(委員からの意見)

- ・ 外から見た時の北上がどう見えるのか、意気込みがあるなら班長さんに書いてもらいたい。タイトルは「将来の北上」とか。
 - ・ 次の市史を作る時の資料として今からそろえておくことも市史の役目として必要である。そういう視点から見た時に、北上がどんな位置づけになっているのか市史の中に書いていなければならないのではないか。
 - ・ 「統括する」の意味は、全体を俯瞰してその構成を説明するという意味ではなか。
- ⇒ 現代の最後に将来のビジョンを入れるということを先生が想定していたのか確認してから検討する。

(その他全体について)

- ・ 歴史に基づく記載になっていない所があるので直すこと。(いつどこで何が起こって、北上はどのように、どんな役割を果たしたのかなど)

・全体として読めない漢字、使わない言葉がたくさんある。天皇に対する言葉など特殊な言葉がある。

・天皇に対しての言葉は意味が分かればいいので、そこまで特殊な言葉を使わなくてもいいのではないか。

⇒ 校正段階で、常用漢字でない難しい言葉にはルビを入れるなどして対応する予定である。

※ 原稿全体について、意見等がある場合は2月中に事務局まで連絡すること。

(5) その他

(6) 閉会